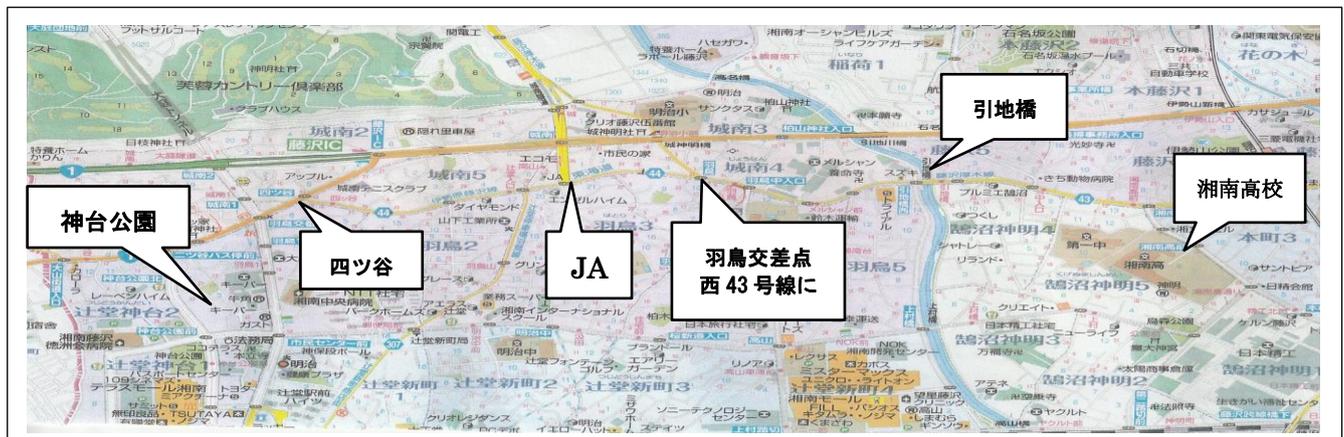


## オリンピック聖火リレーコース 藤沢地区を歩く

2020年東京オリンピックの聖火リレーコースは昨年12月17日、大会組織委員会から発表されました。神奈川県内は6月29日～7月1日の3日間、15市町村の計23区間、総走行距離約55km、総勢278人のランナーが駆け巡る。今回大会では交通事情等環境の変化によりコースは連続していない。また、前大会のように聖火の分火は行われず、セーリング会場の江ノ島の聖火台には火は燈されません。

藤沢には第1日の6月29日、聖火が箱根駅伝往路コースゴール地点を出発したのち、伊勢原市、小田原市、大磯町、平塚市、茅ヶ崎市を経て江ノ島の北緑地広場でミニセレブレーション、西浜歩道橋まで聖火リレーが行われた後、聖火は自動車で湘南高校前まで運ばれ、旧東海道(43号線)、を駆けて辻堂神台公園で、セレブレーション、第1日が終了するというものです。

湘南高校、辻堂神台公園間、地図を見ると4km程度なので、これなら歩けそうとぶらっと歩いてみた記録です。藤沢駅から東海道、藤沢宿を経て出発点の湘南高校前まで約3km(この区間はよく歩くので、記録はカット)湘南高校から辻堂神台公園まで4.3km、計7km程度歩いてみた。



東海道(43号線)を藤沢橋から西に向かって歩き、バス停湘南高校入口交差点を左折し湘南高校へ。校門が開いていたので中に入った。校門の楠は歴史を感じさせるに充分である。一段下がったグラウンドでは野球の練習をしていた。その光景を眺めていると女子マネが「こんちは」と声をかけた。怪しいと思ったのか、卒業生と思ったのか、それとも誰にでも挨拶するのは分からないが、いい気分だ。湘南高校は言わずと知れた県下有数の進学校、文武両道として知られ、FWA会員の中にも卒業生が多い。創立は明治年間思ったが、1921年(大正10年)である。卒業生にはノベル賞受賞の根岸英一先生など著名人、枚挙の暇がない。湘南高校の名を知ったのは、昭和24年(1949)夏の全国高等学校野球大会で優勝したときだった。そのときのメンバー、佐々木信也氏は慶大に進み、プロ野球に入ったが、その後、野球解説者としての方が名をはせ格好いい湘南ボーイであった。同じく優勝時のメンバー、脇村春夫氏は高野連の会長を長く務めている。近くは東大から日ハムに入った宮台投手、今シーズンが正念場である。



再東海道に戻り、藤沢一中前、引地橋に出る。引地川がゆったりと流れる。川の両側は緑道になっていて、水と緑のプロムナードとふじさわの景観ベストテンにも選ばれている。かって引地川の源流まで子供と歩こうという企画ウォークがあったが、子供の参加は一人もなくがっかりしたことがあった。



おしゃれ地蔵



養命寺 天井絵



メルシャンワイン工場

橋を渡ると緩い坂道、おしゃれ地蔵、白くお化粧され赤い口紅が引かれお花も手向けられていた。地域の人がお世話しているのであろう。おしゃれ地蔵とは珍しい名のお地蔵さんである。教育委員会の説明文によると、女性の願い事なら何でもかなえてくれ、願いが叶った暁には白粉を塗ってお礼をするという。ネットで検索すると藤沢のここしかヒットしない。石仏は天明命8年(1780)の造立銘があるという。天明と聞いて、思い浮かべるのは天明の飢饉である。女性の願いなら何でもかなえてくれるというのも気になる。生活に困窮した女、ここは宿場町のはずれ、飯盛り女や夜鷹が苦界から逃れたいと願ったのではないかと考えるのは悪い癖か。

向かい側は養命寺。七福神めぐりの幟が立つ。七福神は布袋尊。1月22日はFWAの恒例「藤沢七福神めぐり」は歩け協会時代から続く恒例行事である。曹洞宗、文禄元年(1592)、本寺宗賢院三世天龍和尚の創建とされる。ご本尊は木造薬師如来像(像高90cm)、昭和2年に国の重要文化財であるが、火災等为了避免安全な場所に保管されているそうだ。見ていただきたいのは慶応2年の作の224面の鮮やかな天井絵である。

その先、隣がメルシャンワイン工場である。神奈川県はワイン生産量日本一ということご存じですか。実はチリなど海外からワインの原液を輸入しボトリングしているからなのです。現在、メルシャンは麒麟ビールグループのワイン事業の中核となっているが、この業界は吸収・合併の歴史であった。同社のホームページによると、1943年(昭和9)、味の素の創業者鈴木三郎助の次男、鈴木忠治が昭和酒造を設立したことになっているが、それより以前、この地で1919年(大正8)、伊丹の白雪で知られる小西新左衛門がサツマイモを原料としてアルコールや焼酎を生産したのが始まり。この時代を含めると100年、それを記念して工場見学会、ワインのサービスを行ったら2020オリンピックに相応しいイベントとなるのだが、いかがか。



四ツ谷付近



大山道標



神台公園

メルシャンを後にして羽鳥中学入口交差点を経て羽鳥バス停(羽鳥4-11)、この間約600m。鶏卵問屋渡辺丸八商店前、羽鳥信号で右折し大庭方面に向かう藤沢厚木線43号線。ここを起点に直進する東海道は44号線となる。直進する東海道は44号線(伊勢原・藤沢線)となる。明治小学校方面へ通じる歩道橋があり、右旧三嘴家住宅まで360mの案内がある。三嘴家はその後どうなったか気になるところだがスルーして先へ。

再び、大きな交差点、JA があって右 43 号線へ通じる大道、曲がり角付近に大庭城もなかという菓子店があった。その先、バス停辻堂入口、辻堂停車場羽鳥線、名前につられて右に入ってしまうそうだが、ひたすら西へ。前方行く手に林の木立が見えてきた。木立は小さな鳥居が二つある小さな神社であった。四ツ谷のバス停を過ぎるとすぐ藤沢 IC からの国道 1 号と交差、国 1 をほんの少し進むと羽鳥交番前交差点、向かい側に大山道道標がある。羽鳥交番前を左折し、湘南中央病院入口、法務局とドコモの間を通過して神台公園ゴールとなる。ここでセレブレーションが行われる。聖火台が作られるという話はない。この神台公園、元関東特殊製鋼（カントクと親しまれた）の工場があった所であるが 2010 年（平成 22）に解散している。

藤沢駅から神台公園まで 7km 程度であるが、神奈川県発表の地図（ネットで見られるが転載不可）があるが、四ツ谷付近からはリレーされない箇所がある。

なお、別途、聖火が神奈川県各市町村間、自動車で運ばれると想定されるルートを含む、約 380km のバーチャルウォーク案内を作成しました。よかったら毎日のウォーク記録帖としてご活用ください。少しはオリンピック気分になれるかもしれません。

八柳 修之